

特別企画展

リサ・ラーソン展

Seen and Unseen

知られざる創造の世界—クラシックな名作とともに

会期：2023.3.24-5.7

時間：9:30-18:00 (入館は17:30まで)

会場：鹿児島市立美術館一般展示室

料金：一般 (中学生以上) 1,200円 (前売1,000円)

小学生以下 無料

ほくおう ゆた し
北欧の豊かな自
ぜん なか そうさく
然の中で創作され
た、ネコやライオ
ンなどの動物や子
どもをモチーフに
した素朴で温かみ
のある作品は、世
界中のファンを魅



りょう さい むか げんざい じぶん
了し、91歳を迎えた現在も自分のペース
たの いったんもの
で楽しみながら、一点物の作品 (ユニーク
ピース) を制作し続けています。

ほんてん だいいいし
本展では、リサ・ラーソンの代名詞と
せいはつ じん
いわれる、かわいらしい動物や静謐な人
ぶつぞう とうげいひん くわ にほん しょうかい
物像の陶芸品に加え、日本では紹介され
る機会がなかった珍しい一点物の作品や、
いそざい
ガラスやブロンズなどの異素材作品、そ
しょうがい えいきょう あた
して生涯において影響を与えあったモダ
ニズムの画家で夫のグナル・ラーソン
の作品との同時展示を通して、その知ら
れざる創造の世界をご紹介します。

リサ・ラーソン

1931年スウェーデン・
スモーランド出身。
北欧デザインの巨匠ス
ティグ・リンドベリに



©Johanna Larson

2023年 春号
No.22

市美だより

鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館

〒892-0853

鹿児島市城山町4番36号

TEL(099)224-3400



春の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：ワカガキ~巨匠たちの青春

会期：3月7日(火)~5月21日(日)

館の所蔵作家の10代から20代にかけての「若描き」(若いころに描いた)作品と当時の作家の胸中が垣間見られる言葉の数々を併せてご紹介します。作家の若き日の作品には、作家の特質が色濃くにじみ出ているものと思われま。一方で、影響を受けやすい多感なこの時期には、後の代表的作風とはまったく異なる表現もしばしば垣間見られるものです。表現への強い情熱に対して、技術が粗削りで追いついていかないという、この時期ならではのアンバランスさこそが「若描き」の魅力でしょう。いずれにせよ、自己と真撃に向き合い、独自の表現に挑んだ成果がこれらの作品群に現れています。また、彼らの当時の言葉や、後の回想記を読んでみると、将来への不安や生活の厳しさを抱えると同時に、自由を謳歌する暢気な一人の若者として、時代は移っても、現代の若い世代と変わらない姿にも気づかされます。近代日本を代表する画家たちの表現者としてスタート地点を見渡すものです。彼らの作品や言葉の中に共感できる部分を見つけながらご鑑賞いただければ幸いです。



黒田清輝《自画像》1889

み さいだい
見いだされ、スウェーデンの最大の陶芸制
かいしゃ しゃ かつやく
作会社グスタフスベリ社で活躍。1980年
どくりつ
に独立。2022年にはスウェーデン政府よ
げいじゆつぶんか こうけん ひょうか
り、芸術文化に貢献したことが評価されイ
きんしょう じゆしょう
リス・クオルム金賞を受賞。



©LISA LARSON

ポール・セザンヌ《北フランスの風景》

1885年頃、油彩・キャンバス、縦45.0×横53.0cm
九州の公立美術館ではじめてコレクションに加
わった、「近代絵画の父」と称されるポール・セ
ザンヌ(1839~1906年)の作品です。
セザンヌは、南フランスの裕福な銀行家の家に
生まれました。家業を継ぐことを期待されながら
も画家を志し、パリの美術学校で学びます。当初
は物語性のある主題を暗い色彩と厚く塗り重ねた
筆遣いで描いていましたが、ピサロやモネら印象
派の画家たちと親交を深める中で、色調は明るく

無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は
無料開放日です。

所蔵作品展 + 小企画展を無料で
鑑賞いただけます。3月19日(日)

4月16日(日)、5月21日(日)...

5月5日 子どもの日も無料です!



薄塗りへと変化します。

印象派展に2回参加したものの、描く対象の形よりも光が生み出す印象を重視する傾向に疑問を抱き、明るい色彩を保ちながら、安定した構図や形の独自の絵画を追究し始めます。

目に見える世界を平面のキャンバスに再現するために、自然を注意深く研究して、円筒形や球体などの形態として捉えて表現し、マチスやピカソなど20世紀の芸術家に大きな影響を与え、近代絵画の父と呼ばれています。

むき出しのキャンバス地が残る本作では、風景をそのまま写すのではなく、余計な要素を削ぎ落とし、一定の方向に揃えられた筆遣いで色彩と形を表現しながら、風景全体の構造を明らかにすることに制作の意図があったと思われます。

公共の場に設置してある
屋外彫刻に関する情報を
大募集しています。

家族の人と一緒に街歩きをして、
発見した彫刻に関する情報を、
美術館へお寄せください。

詳しくは美術館HPで
ご確認ください。



街全体が美術館 魅力再発見!
街歩きを
楽しむ
街なか美術館
-ふらり屋外彫刻めぐり-
美術館HP